

## 令和 7 年度和歌山県文化表彰について

令和 7 年度和歌山県文化表彰の受賞者が決まりましたので、お知らせします。  
文化表彰とは、文化の向上発展に特に顕著な功績のある個人や団体を表彰する  
もので、和歌山県の芸術文化の振興を図ることを目的としています。

### 1 受賞者（50音順・敬称略）

(1) 文化賞（文化の向上発展に特に顕著な業績を示し、和歌山県の誇りに値すると認められる方を表彰）

氏 名	年 齢	住 所	出身地	分 野
おか だ まさ し 岡 田 全 司	76	大阪府	湯浅町	医学者

(2) 文化功労賞（文化の向上発展に貢献し、その功労が特に顕著である方を表彰）

氏 名	年 齢	住 所	出身地	分 野
さかえ はら と わ お 栄 原 永遠男	79	大阪府	東京都	日本史学者
たか す ひで き 高 須 英 樹	77	和歌山市	東京都	植物生態学者

(3) 文化奨励賞（すぐれた文化の創造と普及活動を続け、将来一層の活躍が期待できる方を表彰）

氏 名	年 齢	住 所	出身地	分 野
いま よし いたる 今 吉 格	45	大阪府	兵庫県	生命科学者
かな たに こう ぞう 金 谷 幸 三	59	和歌山市	兵庫県	クラシックギター奏者
こ てら か な 小 寺 香 奈	48	和歌山市	大阪府	ユーフォニアム奏者

（年齢は令和 8 年 2 月 2 日現在）

### 2 表彰式

(1) 日 時 令和 8 年 2 月 2 日（月）14 時～

(2) 場 所 和歌山県庁 本館 4 階 正庁

### 3 賞

表彰状、<sup>き</sup>徽章（メダル）及び副賞をお贈りします。

### 4 沿革

昭和 39 年度から実施、本年度で 62 回目を迎えます。

### 5 来年度の候補者の推薦

令和 8 年 4 月下旬から 6 月末まで、候補者の推薦を受け付ける予定です。

（どなたでも推薦することができます。ただし自薦はできません。）

（連絡先）企画部 企画政策局 文化学術課 文化企画班

担 当：北代、宮脇

電 話：073-441-2050（直通）内 線：2060

# 令和 7 年度和歌山県文化賞

おかだ まさし  
**岡田 全司**

住 所 大阪府堺市  
出 身 地 和歌山県有田郡湯浅町  
生 年 昭和 24 年

## ◎ 業績及び経歴

昭和 24 年有田郡湯浅町に生まれる。昭和 48 年和歌山県立医科大学を首席で卒業後、大阪大学大学院医学研究科（第三内科学）博士課程に進み、山村雄一氏、岸本忠三氏の指導の下、癌や結核に重要な T 細胞免疫の分化因子の研究で昭和 52 年博士号（医学）を取得。その後、国立白浜温泉病院（現在の国立病院機構南和歌山医療センター）で内科医として勤務。昭和 53 年から米国ワシントン大学フレッド・ハッチンソン癌研究所に留学し、癌細胞・結核菌・ウイルス感染細胞を死滅させる重要なキラー T 細胞を活性化させるキラー T 細胞分化因子を世界に先駆けて発見する。帰国後の昭和 56 年、氏は世界で最初にヒト T 細胞ハイブリドーマを作製し、種々のリンパ球活性化因子を産生する、画期的なヒト T 細胞クローン確立法（CEM ヒト T 白血病細胞と正常ヒト T 細胞を融合）を樹立し、世界の免疫学進展に大きく貢献する。その後も、インターロイキン 6 の発見につながる B 細胞分化因子の発見など、次々に重要な発見を行う。また、結核ワクチン開発の功績も顕著である。平成 17 年に国立病院機構近畿中央呼吸器センター臨床研究センター長に就任し、平成 18 年から大阪大学大学院医学研究科招聘教授を併任していたが、その当時に手がけた結核治療ワクチン（HSP65DNA+1L-12DNA）は、多剤耐性結核患者に臨床応用され、結核菌が 0 個となる画期的な治療効果を発揮した。氏の一連の研究は、世界で 50 万人以上の患者がいと推定される多数の難治性結核に対しても多大な効果を発揮し、結核治療 DNA ワクチンの臨床応用にも成功している。これらの実績により、世界保健機関（WHO）の新結核薬委員を務めるなど、国際的にも高く評価される。また、複数府県にまたがる広域共同研究グループの研究代表者や世話人を多数務め、本県に多い多剤耐性結核の調査や新治療法研究、呼吸器疾患研究等について国立病院機構和歌山病院を長年指導するなど、本県の医療にも貢献している。

氏は、我が国を代表する結核ワクチン及び免疫研究者であり、その業績は世界的で本県の誇りである。

## ■ 現 在

- ・独立行政法人国立病院機構近畿中央呼吸器センター臨床研究センター客員研究員

## ◆ 主な表彰歴等

- |       |   |
|-------|---|
| 平成13年 | 厚生労働省近畿厚生局長賞                                |
| 平成17年 | 一般財団法人イスクラワクチン・医療基金 第29回多ヶ谷勇記念ワクチン研究イスクラ奨励賞 |
| 平成20年 | 日本遺伝子治療学会（現・日本遺伝子細胞治療学会）第14回日本遺伝子治療学会誌賞     |
| 平成24年 | 日本結核病学会（現・日本結核・非結核性抗酸菌症学会）今村賞               |

# 令和7年度和歌山県文化功労賞

## さかえはら とわ お 栄原 永遠男

住 所 大阪府豊中市

出 身 地 東京都港区

生 年 昭和21年

### ◎ 業績及び経歴

昭和21年東京都港区に生まれ、幼少期に転居し、以後は大阪市で育つ。昭和44年京都大学文学部史学科を卒業し、昭和49年京都大学大学院文学研究科を単位取得退学。飛鳥時代から奈良時代を中心とした日本古代史を専門とし、正倉院で保管されてきた「正倉院文書」や木簡、東大寺、紫香楽宮の研究で知られ、木簡学会・正倉院文書研究会・条里制古代都市研究会・出土銭貨研究会などの学会の会長や代表を務める。和歌山県関連では紀伊古代史に係る研究論文や著作も多い。京都大学博士（文学）。

大阪市立大学（現在の大阪公立大学）で教鞭を執る傍ら、開県100年を記念して昭和47年から始まった『和歌山県史』編纂事業に携わる。『和歌山県史』は長期にわたり全24巻が刊行されたが、その最終巻として平成6年に刊行された通史編『原始・古代』では、和歌山県の黎明期から平安時代末までを扱っている。氏はこの巻において、第4章第2節「紀氏と大和政権」、第5章第1節「律令制の成立と紀伊の国制」、同章第2節「律令制下の政治と社会」、同章第3節「律令制の変容」を担当し、飛鳥時代から平安時代の紀伊国の政治状況や経済状況、都との交流状況等についてわかりやすく執筆した。史料編『古代史料一』でも古代史料の編纂を担当した。そのほか『粉河町史』、『海南市史』についても古代史に関する章を執筆している。平成16年には、研究の集大成として『紀伊古代史研究』（思文閣出版）を出版する。

大阪市立大学退職後は、東大寺史研究所所長や大阪歴史博物館館長、大阪市文化財協会理事長等を歴任し、各地で日本古代史の講演活動を行っている。また、令和6年1月19日に皇居宮殿で催された歌会始の儀では、天皇陛下に特別に招かれた召人として参列し、自ら詠んだ歌木簡についての和歌が披露されるという栄誉にあずかった。

氏はわが国の古代史研究を通じて、当時の大和政権において古代の紀氏や紀伊国が大きな存在感を有していたことを県内外に広く知らしめるなど、学術面から本県の文化振興に大いに貢献されており、その功績は誠に多大である。

### ■ 現 在

- ・東大寺史研究所所長
- ・東大寺学術顧問
- ・大阪市立大学名誉教授
- ・大阪歴史博物館名誉館長

### ◆ 主な表彰歴等

- |       |                                      |
|-------|--------------------------------------|
| 平成6年  | 公益財団法人角川文化振興財団<br>第16回角川源義賞受賞（国史学部門） |
| 平成8年  | 粉河町教育功労者表彰                           |
| 平成17年 | 粉河町文化功労者表彰                           |
| 平成22年 | 泉佐野市教育委員会表彰                          |
| 平成27年 | 第50回大阪市市民表彰（文化功労）                    |
| 平成27年 | 大阪狭山市市民表彰                            |
| 令和2年  | 姫路市教育委員会教育功労者表彰                      |

# 令和7年度和歌山県文化功労賞

たかす ひでき  
高須 英樹

住 所 和歌山県和歌山市

出 身 地 東京都日野市

生 年 昭和24年

## ◎ 業績及び経歴

昭和24年東京都南多摩郡日野町（現日野市）に生まれる。昭和47年富山大学文理学部（理科系）生物学科を卒業後、京都大学大学院理学研究科へ進む。昭和51年に博士課程を中途退学後、大学教員としてキャリアを重ね、和歌山大学教育学部では平成2年から助教授、平成23年から教授として教壇に立つ。理学博士。

平成26年に和歌山大学を退官後、同大学から名誉教授の称号を授与される。また、平成26年度から令和3年度までは、和歌山県立自然博物館の館長を務めた。

専門は植物生態学であり、和歌山県の植物分布状況に詳しく、その専門的見地から本県の複数の審議会等において委員を務め、県政に大いに貢献されている。特に、『和歌山県レッドデータブック』の作成およびその後の改訂作業に携わった功績は大きい。自然豊かで知られる和歌山県においても、将来的に絶滅が危惧される動植物が多数あるが、本県の貴重な自然の状況を把握し、県として保護・保全の対象とすべきものを明らかにするため、平成13年に『和歌山県レッドデータブック』が発行された。その後、一度目の改訂となる「2012年（平成24年）改訂版」の発行を経て、二度目の改訂となる「2022年（令和4年）改訂版」の発行に向けて、改訂の全体方針に関する事項について各分類群の専門家による選定作業を進めるために平成28年に設置された「生物多様性和歌山戦略推進調査会」において、氏は座長を務めるとともに、植物・植物群落専門部会の部会長をも務め、改訂作業に尽力された。

現在は、和歌山大学において非常勤講師を務めるほか、50年以上にわたり地域の生物観察会において県民や子ども達に植物や自然の魅力を伝える活動に取り組んでいる。

和歌山県の植物の魅力を広く伝えるとともに、その多様性を守るために長きにわたり活動されてきた功績は誠に多大である。

## ■現 在

- ・和歌山大学名誉教授
- ・和歌山大学非常勤講師
- ・環境省希少野生動植物種保存推進員
- ・世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」三県協議会委員
- ・生物多様性和歌山戦略推進調査会会員・座長
- ・生物多様性和歌山戦略推進調査会 植物・植物群落専門部会部会長
- ・和歌山県河川整備審議会委員
- ・和歌山県河川整備審議会 河川整備計画部会委員
- ・和歌山県土地利用審査会委員
- ・和歌山県森林審議会委員
- ・和歌山県文化財保護審議会委員
- ・和歌山県立自然博物館運営協議会委員
- ・和歌山県緑化功労賞選考委員会委員

# 令和7年度和歌山県文化奨励賞

いまよし いたる  
**今吉 格**

住 所 大阪府高槻市  
出 身 地 兵庫県伊丹市  
生 年 昭和55年

## ◎ 業績及び経歴

昭和55年宮城県柴田郡柴田町に生まれる。小学6年生まで兵庫県伊丹市で育った後、和歌山県橋本市に転居し、高校卒業までの十代の多感な時期を同地で過ごす。大阪大学工学部応用自然科学科生物コースを卒業後、京都大学大学院生命科学研究科修士課程高次生命科学専攻へ進み、平成20年に博士課程を修了し、博士（生命科学）の学位を取得する。大学学部生の間に、人間の身体の中で一番複雑な臓器である脳も、分子・遺伝子・細胞というレベルでの理解が可能な時代になっていることを知り、脳神経系の生命科学研究者を志した。大学院在籍中から、独立行政法人日本学術振興会特別研究員のほか、京都大学ウイルス研究所研究員を務める。博士号取得後は、哺乳類の成体脳においても、神経幹細胞がニューロン（生物の脳を構成する神経細胞）を産生し続けるという現象「ニューロン新生」の高次脳機能に果たす役割の解明等について、京都大学ウイルス研究所を拠点に研究を行う一方、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が実施する若手研究者の支援プログラム「戦略的創造研究推進事業（さきがけ）」の平成21年度・平成26年度研究者として採択されるほか、京都大学が行う次世代研究者育成支援事業「白眉プロジェクト」の第2期（平成23年度～平成27年度）の「白眉研究者」（特定准教授）に採用されるなど、若手研究者として期待される。その後、京都大学大学院医学研究科メディカルイノベーションセンターSKプロジェクト神経新生研究グループのPrincipal Investigator、同大学院生命科学研究科特定准教授（卓越研究員）等を経て、平成30年に同大学院生命科学研究科教授に就任する。

これまでに、光を用いて神経幹細胞の増殖とニューロン分化を人工的に操作する新しい技術の開発や、老化した神経幹細胞を若返らせる研究等に成功し、それらの研究成果は高く評価され、数々の受賞歴を誇るとともに、世界的な学術誌に論文が掲載されている。

氏が取り組むこれらの研究は、将来的にはヒトの神経疾患や認知症などの治療に応用できる可能性があり、今後の一層の活躍が期待されている。

## ■現 在

- ・京都大学大学院生命科学研究科附属生命情報解析教育センター教授
- ・京都大学医生物学研究所教授

## ◆主な表彰歴等

- 平成22年 公益財団法人井上科学振興財団 第26回井上研究奨励賞
- 平成26年 在日ドイツ商工会議所 第6回 ドイツ・イノベーション・アワード ゴッドフリード・ワグネル賞2014 最優秀賞
- 平成28年 文部科学省 科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞
- 平成28年 橋本市文化奨励賞
- 平成29年 一般社団法人日本神経科学学会 第1回ジョセフ・アルトマン記念発達神経科学賞

# 令和7年度和歌山県文化奨励賞

かなたに こうぞう  
**金谷 幸三**

住 所 和歌山県和歌山市  
出 身 地 兵庫県神戸市  
生 年 昭和41年

## ◎ 業績及び経歴

昭和41年兵庫県神戸市に生まれる。10歳でクラシックギターを始め、小林勝夫氏、岡本一郎氏に師事する。16歳の頃から数々のギターコンクールで優秀な成績を収め、昭和59年に高校を卒業後、フランス国内最高峰の音楽院として知られるパリ国立高等音楽院のギター科にトップの成績で入学し、20世紀クラシックギター界を代表する世界的奏者の1人であるアレクサンドル・ラゴヤ氏に師事する。その後、パリ国際音楽大学に移り、ミシェル・サダノフスキー氏に師事し、同大学で史上初の満点を取り首席で卒業する。在学中から現代音楽の活動も積極的に行い、平成元年には、パリのエコールノルマル音楽院の名門ホール「サル・コルトー」において、現代音楽プログラムによるデビューリサイタルを行う。平成2年に帰国し、地元関西での演奏活動を経て上京する。スタジオワーク、劇伴、CM音楽、演劇作品などでも活動し、表現の幅を広げる。その後、音楽活動を一時休止するも、平成10年に活動を再開し、平成11年にリサイタル「RE1999」で再デビューする。現在は和歌山市を拠点に県内外で活躍し、様々なアーティストや楽団等とも多数共演している。平成29年には海南市出身のフルート奏者・岡本万貴氏と「黒江万金堂」を結成し、デュオとしても活動する。

氏は、通常の6弦ギターのほか、世界的に珍しい11弦ギターの演奏にも取り組み、平成24年には全編11弦ギター演奏によるアルバム「≠失われし望み」を発表し、音楽専門誌等で高く評価される。平成30年に「禁じられた遊び」、令和2年には「ラブソングス」のアルバムを発表。後進の育成にも熱心に取り組み、ギター教室を主宰するほか、こどもを対象としたギタークラブの指導にもあたり、ギターの素晴らしさを広く伝えている。

卓越した演奏技術から生まれる情感あふれる美しいメロディーは、人々に深い感動を与えており、今後もより一層の活躍が期待される。

## ■現 在

- ・クラシックギター奏者
- ・音楽デュオ「黒江万金堂」ギタリスト
- ・「エスカルゴなギター教室」主宰
- ・「和歌山KIDSギタークラブ」講師

## ◆主な表彰歴等

- |       |                             |
|-------|-----------------------------|
| 平成元年  | 第2回シャントレル国際ギターコンクール優勝（フランス） |
| 平成12年 | 第43回東京国際ギターコンクール3位（邦人最高位）   |
| 平成13年 | 第26回ギター音楽大賞グランプリ            |
| 平成13年 | 第28回日本ギターコンクール2位            |
| 令和5年  | 公益財団法人大桑教育文化振興財団 大桑文化奨励賞    |

# 令和7年度和歌山県文化奨励賞

## こ て ら      か   な 小 寺      香 奈

住 所 和歌山県和歌山市  
出 身 地 大阪府門真市  
生 年 昭和52年

### ◎ 業績及び経歴

昭和52年大阪府門真市に生まれる。12歳でユーフォニアムと出会い、高校一年生で将来はプロの演奏家として活動することを決意する。東京藝術大学音楽学部器楽科を経て、埼玉県警察音楽隊でユーフォニアム奏者として勤務した後、同大学大学院音楽研究科修士課程（音楽文化学専攻）を修了。これまでに、ユーフォニアムを稲川榮一氏、外園祥一郎氏、三宅孝典氏に師事する。東京藝術大学、上野学園大学を始めとする複数の大学で研究員や教員として勤務。和歌山大学教育学部では特任准教授、講師を経て、平成25年から准教授を務める。平成25年から平成26年にかけて、同大学教職員長期海外派遣により、ドイツのケルンにおいて、アンサンブル・ムジークファブリークやケルン音楽舞踊大学で研鑽を積む。現在は、国内各地のオーケストラや吹奏楽団への客演奏者として、またソロや室内楽では現代音楽の分野でも積極的に活動している。

平成26年からリサイタルシリーズ「ディスカヴァリー・ユーフォニアム」を開始し、同時代作曲家との協働により、ユーフォニアムのレパートリー開拓に取り組んできた。平成28年には、委嘱作品等を集めたアルバム「ディスカヴァリー・ユーフォニアム」を発表し、音楽専門誌等で高く評価される。県内の活動としては、令和7年4月に和歌山市で開いたリサイタルでは、事前に地元の小学生を対象に音楽と美術を取り入れたワークショップを実施し、アーティストとこどもが共同で創り出した音や創作物を新作に組み込み、参加児童と共に本番当日のステージ上で初演するという新しい試みに挑戦した。また、田辺市立美術館、和歌山県立近代美術館における、展覧会や美術作品と現代音楽作品のコラボレーションによるコンサートは、分野横断的な新しい取り組みとして注目された。教育的な活動としては、地域のこどもから大人までを対象とする「わかやま金管楽器練習会」を定期開催するなど、本県の文化振興に大きく貢献している。

高度な演奏技術を持ち、ユーフォニアムの新しい表現と可能性に果敢に挑戦する氏は、今後より一層の活躍が期待される。

### ■ 現 在

- ・ユーフォニアム奏者
- ・大阪コンサートブラス テナーホーン奏者
- ・和歌山大学教育学部准教授

### ◆ 主な表彰歴等

- 令和5年 公益財団法人大桑教育文化振興  
財団 大桑文化奨励賞  
令和6年 和歌山市文化表彰 文化奨励賞

## 【文化表彰各受賞者からの受賞に際するコメント】

### 《文化賞 岡田 全司 様》

このたびは、大変名誉ある和歌山県文化賞を賜り、私の長年の研究に対する故郷からの評価、誠に光栄に存じます。私は濱口梧陵等が創設の耐久高校を卒業し、和歌山県立医科大学を経て大阪大学大学院(第三内科学)を修了し、結核や癌の治療に最も重要なT細胞の分化・活性化（キラーT分化因子、ヒトTハイブリドーマの確立、結核ワクチン等の臨床応用）を世界に先駆けて発信し続けてきました。多くの共同研究者に深謝いたしますとともに和歌山県の益々のご発展を祈念しています。

### 《文化功労賞 栄原 永遠男 様》

このたびは伝統ある和歌山県文化功労賞を賜り、まことに光栄に存じます。長く続けてきた紀伊古代史研究を評価してくださり、大変うれしく思います。紀氏は古代に活躍し多くの足跡を残しました。私は、この紀氏を追いかけてきましたが、それは同時に紀伊国の重要性を解明することでもありました。しかし、紀氏や紀伊国については未解明の問題が多く残っています。今回の受賞を励みとして、さらに研鑽を積んでいきたいと思います。ありがとうございました。

### 《文化功労賞 高須 英樹 様》

このたびは、まったく思いもかけず和歌山県文化功労賞を賜り誠に光栄に存じます。心より御礼申し上げますとともに、一方で驚きも禁じえません。植物を研究対象とし和歌山大学に着任してからは、和歌山の貴重で豊かな自然を保護・保全することを念頭に置きながら研究を進めてきましたが、その成果は甚だ心もとないものです。その中で先輩諸氏および研究室のゼミ生たちに支えられて、研究を続けていくことができました。改めて皆様に御礼を申し上げたいと思います。

### 《文化奨励賞 今吉 格 様》

このたびは、和歌山県文化奨励賞という名誉ある賞を賜りまして大変光栄に存じますとともに、心より御礼申し上げます。生命科学者として、我々の脳が出来上がるにはどのような仕組みが必要で、そして、成長の過程でどのように成熟していくのかについて、研究を進めています。また、得られた成果を使って、神経変性疾患の治療や神経再生にも将来つなげていきたいと考えています。自然豊かな和歌山にて、十代の多感な時期を過ごすことができたのは、一生の財産になっております。また、これまで、および、現在と、研究を一緒に取り組ませていただきました、関係者の皆様にも厚く御礼申し上げます。



### 《文化奨励賞 金谷 幸三 様》

このたび和歌山の文化芸術の中で歴史ある賞をいただき感謝申し上げます。クラシックギターは繊細な響きを持つ楽器です。大きな舞台では音量的に弱点とされることもあります。その音色は聴く人の心のひだに染み込む、懐かしさと優しさを持ち合わせています。弱点を強みとして捉え、クラシック音楽を上段から語るのではなく、人に寄り添う「ギターらしい」音楽を地方から世界へ今後も発信し続けて参ります。

### 《文化奨励賞 小寺 香奈 様》

このたびは、和歌山県文化奨励賞という伝統ある賞を賜り、誠にありがとうございます。

これまで続けてきた、現代の作曲家との協働による新作初演や、近年の和歌山での演奏を評価していただき大変光栄に存じます。和歌山へ移り住んで十年が過ぎましたが、身近にある豊かな自然に助けられ、また創作のアイデアも得てきました。これからも与えられた環境に感謝し、精進して参ります。応援してくださる皆さま、いつもそばで支えてくれる家族に、改めて心より御礼申し上げます。

## 令和7年度和歌山県文化表彰受賞者

### 【文化賞】

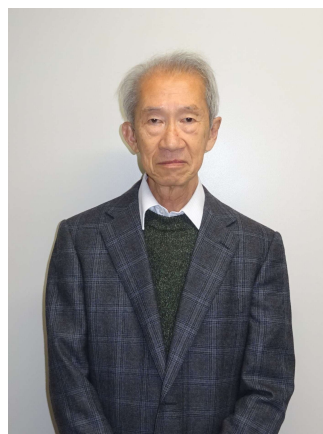


岡田 全司 氏

### 【文化功労賞】



栄原 永遠男 氏



高須 英樹 氏

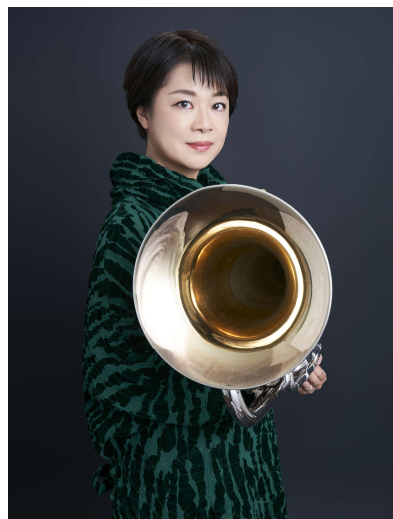
### 【文化奨励賞】



今吉 格 氏



金谷 幸三 氏



©Ayane Shindo

小寺 香奈 氏

※下記へご連絡いただければ、写真データをメール送信させていただきます。

担当 文化学術課 北代（きたしろ）

Email kitashiro\_y0001@pref.wakayama.lg.jp

小寺香奈氏の写真を掲載する際には「©Ayane Shindo」のクレジットを入れるようお願いいたします。